



高知県立幡多けんみん病院

広報誌

はた家

はたの家族の健康をはぐくむ《はたけ》でありたい

vol.12 2026.7





令和8年度新任医師紹介

新任医師



**内科
山本 慧**

今年4月から赴任しましたが、実は幡多に住んで5年目です。精一杯頑張りますので、よろしくお願いします。



**内科
吉本 龍太郎**

3年ぶりにけんみん病院へ帰ってきました。幡多地域の皆様に貢献できるよう、尽力してまいります。何卒よろしくお願いいたします。



**内科
奥田 光俊**

4月から赴任した奥田といいます。今まで救急や外科系の研鑽を積んで参りました。幡多では内科を中心に診療に従事します。フットワークの軽さを大事にしつつ、自らの限界をわきまえ、謙虚に業務を果たして参ります。



**内科
林 かなほ**

4月から赴任しました、内科林と申します。幡多地域の医療に少しでも貢献できるよう、日々努力してまいります。よろしくお願いいたします。



**消化器内科
楠瀬 宗一郎**

4月より幡多けんみん病院に赴任してきました。皆さまのお力になれるように尽力していきます。よろしくお願いいたします。



**循環器内科
濱田 幸汰**

幡多で生まれ育ちました。地元へ恩返しできるよう尽力いたします。



**循環器内科
山中 風佐**

幡多は初めてです。皆様と一緒に頑張りたいと思っています。気軽に声がけください。よろしくお願いいたします。



**循環器内科
井上 愛美**

あき病院から異動してきました。まだ経験が浅く勉強中ですが、幡多の地域医療に貢献できればと思います。よろしくお願いいたします。



**小児科
林 奨之**

4月から赴任しました林奨之です。至らない点が多々ございますが、お役に立てよう精進いたします。よろしくお願いいたします。



**小児科
高杉 洋平**

4月から赴任しました高杉洋平と申します。幡多地域の医療に少しでも貢献できるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



**外科
常光 良介**

今年の4月から赴任しました。幡多地域の外科診療に貢献できるよう精一杯尽力させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



**整形外科
市川 貴一**

研修医の頃に2ヶ月ほどお世話になっておりました。整形外科として幡多地域の医療に貢献できれば幸いです。よろしくお願いいたします。



**整形外科
増島 信也**

脊椎領域を中心に診させていただきます。よろしくお願いいたします。



**整形外科
上田 山侃**

今年から赴任しました。上田山侃と申します。少しでも幡多地域の医療に貢献できるよう努めます。よろしくお願いいたします。



**脳神経外科
堤田 慎**

3年ぶりに高知に帰ってきました。高知県の幡多地区の脳神経外科診療の一助になれるよう日々精進します。



**皮膚科
北岡 明里**

皮膚科の北岡と申します。至らぬ点も多々ございますが、幡多地域の皆様のお力になれるよう日々精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。



**皮膚科
時永 悠生**

4月から赴任しました皮膚科の時永と申します。けんみん病院には研修医の2年間お世話になり、1年ぶりに戻って参りました。何卒よろしくお願いいたします。



**産婦人科
林 佐京**

けんみん病院の研修医として2年間育ていただきました。今回は産婦人科として着任いたしました。至らぬ点が多々ありますが、皆様のお力になれるよう日々努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。



**眼科
尾崎 俊介**

高知大学から赴任しました、眼科の尾崎と申します。何卒よろしくお願いいたします。



**放射線科
岩村 真実子**

高知大学より赴任いたしました。幡多けんみん病院は学生実習の時ぶりですが、新たな気持ちで仕事に臨めたらと思います。よろしくお願いいたします。



病院長就任のご挨拶

病院長 福井 直樹



このたび、令和8年4月1日付で病院長を拝命いたしました福井直樹でございます。日頃より当院に温かいご支援とご協力を賜っており、ますます地域の皆様、ならびに関係機関の皆様に、心より御礼申し上げます。

私は埼玉県に生まれ、神奈川県で育ち、平成7年に高知医科大学（現・高知大学）を卒業いたしました。以来30年以上にわたり高知県で医療に携わり、今ではこの地は私にとってかけがえのない故郷となりました。県外出身の私を育ててくださった高知の皆様、医療を通じて恩返しができるよう努めてまいります。

専門は脳神経外科で、特に脳卒中に対するカテーテル治療を中心に診療に従事してまいりました。これまで県外では、湘南鎌倉総合病院、国立循環器病センターといったハイボリウムセンターで、また県内では、くぼかわ病院、もみのき病院、高知医療センター、高知大学など、高知中央・高幡医療圏の基幹病院において、臨床・教育・研究に携わり、その中で、地域医療と高度医療の両立の重要性を深く認識しております。

当院の使命は多々ありますが、まず、以下の点に注力して取り組んでまいります。

1. 少子高齢化と人口減少が進む中、この幡多地域の医療は大きな転換期を迎えています。医療・介護・福祉の連携をさらに深化させ、切れ目のない持続可能な体制の構築を進めてまいります。そのために、将来の地域医療を担う人材の育成と定着にも力を注いでまいります。
2. 医療現場における働き方改革が求められる今、職員一人ひとりが安心して働き続けられる環境づくりは重要な課題です。当院ではタスクシフト・タスクシェアを推進し、多職種がそれぞれの専門性を発揮できる体制を整えることで、医療の質の向上と職員の負担軽減の両立を図ってまいります。職員を守ることが、ひいては患者さんへのより良い医療提供につながるものと考えております。
3. 今後発生が懸念される南海トラフ地震への備えとして、医療機能を維持できる体制整備を進め、発災後の減災も視野に入れた対策を講じてまいります。

4. 全国的にも医療機関を取り巻く経営環境は厳しさを増しておりますが、公立病院としての役割を十分に認識し、小児・周産期医療、離島を含めたへき地医療、救急医療の灯をこの幡多地域で守り続けていけるよう努めてまいります。

今後も、幡多地域の皆様に安心していただける病院であり続けたいと考えております。変わらぬご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

高知県立幡多けんみん病院

病院長 福井直樹



未来の医療を担う子どもたちへ！ お仕事体験ツアーを開催しました

令和8年2月14日(土)、当院にて小中学生を対象とした「お仕事体験ツアー」を開催し、地域の未来を担う子どもたちが参加してくれました。

このイベントは、地域の子供達に医療現場を知ってもらい、次世代の医療スタッフを目指してもらうためのきっかけづくりとして企画したものです。

当日は、医師や看護師、薬剤師、医療技術職など様々な職種のブースを用意し、実際の医療機器を使った模擬体験を行いました。最初は緊張していた子どもたちも、体験が始まると真剣そのもの。目を輝かせながら熱心に取り組む姿に、私たちスタッフもたくさんの元気をいただきました。



令和8年度も引き続きお仕事体験ツアーを開催予定です。詳細が決まりましたら、改めてご案内します。次回もたくさんのご参加を心よりお待ちしております。



令和8年度新任研修医紹介

研修医



臨床研修医
水田 理心

研修医1年目の水田です。幅多地域の医療に貢献できるよう精進いたします。よろしくお願いいたします。



臨床研修医
深田 太一

研修医1年目の深田です。まだまだ未熟者ですが、幅多地域に貢献できるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。



臨床研修医
松田 悠花

地元である幅多地域に貢献できるように、初心を忘れず頑張ります。2年間よろしくよろしくお願いいたします。



臨床研修医
松本 悠希

研修医1年目の松本です。不慣れなことも多いですが、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



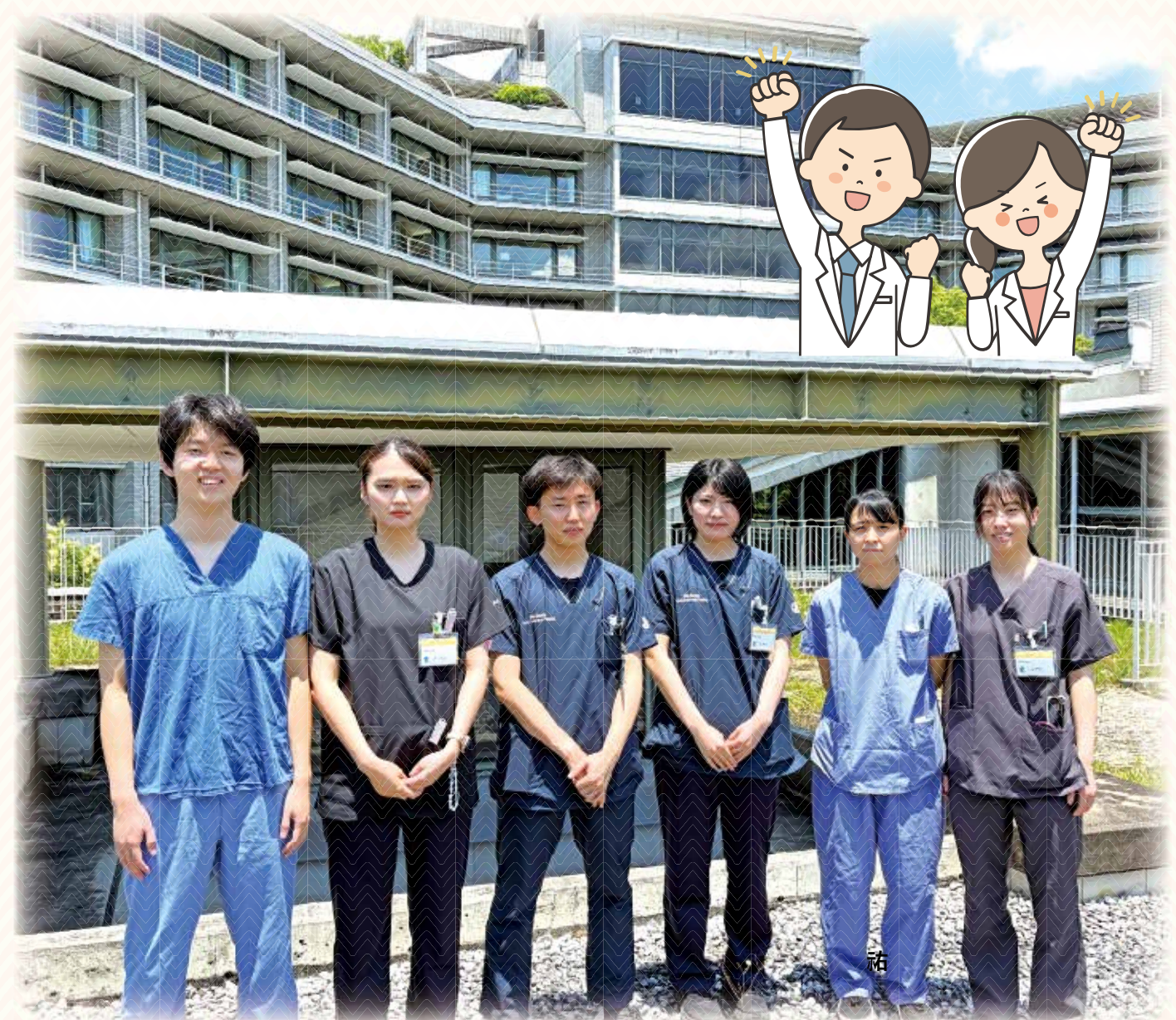
臨床研修医
坂本 拓嗣

自然豊かな幅多地域で多くのことを学び、貢献できるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



臨床研修医
秋田 早央里

研修医1年目の秋田早央里です。地元である幅多地域の医療に貢献できるように精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



予防策に関しては、図③に示すものが基本かつ重要なので是非参考にしてください！

また、自分の身の回りの方で熱中症を疑う症状(図④)があれば、応急処置をしてその後はゆっくり休ませてあげましょう(図⑤)。様子をみるか救急車を呼ぶか迷った場合、図⑤の下線部のような状態があれば遠慮せず救急要請をしましょう！！

暑さを避ける、身を守る

屋内では

- ・エアコン等で温度を調節
- ・遮光カーテン、すだれを利用
- ・室温をこまめに確認
- ・WBGT値も参考に

からだの蓄熱を避けるために

- ・通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用する
- ・保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす

屋外では

- ・日傘や帽子の着用
- ・日陰の利用、こまめな休憩
- ・天気のよい日は、日中の外出をできるだけ控える

こまめに水分を補給する

室内でも、屋外でも、のどの渇きを感じなくても、こまめに水分を補給しましょう

図③

熱中症が疑われる症状例

めまい

大量の発汗

立ちくらみ

筋肉痛

生あくび

筋肉のこむら返り



： 涼しい場所へ

エアコンが効いている室内や風通しのよい日陰など、涼しい場所へ避難させる



： からだを冷やす

衣服をゆるめ、からだを冷やす(特に、首の周り、脇の下、足の付け根など)



： 水分補給

経口補水液などを補給する

※経口補水液を一時に大量に飲むと、ナトリウムの過剰摂取になる可能性もあります。腎臓、心臓等の疾患の治療中で、医師に水分の摂取について指示されている場合は、指示に従ってください。



自力で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに救急車を呼びましょう！

図⑤



熱中症対策



今年も夏がやってまいりました。夏といえば例年、熱中症について報道などで目にすることが多いと思います。今回熱中症の概要や危険性、治療、そして予防についてご紹介したいと思います。

まず、熱中症はどのように人体に悪影響を及ぼすのでしょうか？熱中症では熱そのものによる人体へのダメージ(暑熱障害といいます)と水分の不足や過度の発汗による脱水で人体の細胞が損傷し、激しい炎症反応が引き起こされることで体内の様々な臓器が障害を受けることになります。これらの一連の反応が頭痛や嘔吐、こむら返り、生あくび、意識障害等の様々な症状を引き起こします。

通常、我々の人体は体温を下げるための複数の仕組みが備わっています。

過去に物理学で熱移動の3原則を習ったのを覚えていますでしょうか(図①)。まさにその対流、伝導、輻射に加え、蒸発の4つの仕組みで人体は体温を下げるようにできています。例えば風に当たり涼しく感じるのは対流により熱を逃がすことができているわけであります。しかしながら高温かつ高湿度の環境ではこれらの体温を下げる仕組みが有効に機能しなくなり、体温がさらに上昇することになります。高温かつ多湿な日本の夏は熱中症が起きやすい環境といえます。

熱中症では全身の臓器が障害を受けます。高温そのものが人体の機能維持に不可欠な脳や肝臓、腎臓、さらには血液の機能に障害を与えます。特に脳と腎臓は脆弱な臓器であり、重度の熱中症患者で退院後も脳と腎臓の機能に障害が残ることがあります。イメージとしては、「ゆでたまご」を思い描くと想像しやすいかと思います。ゆでたまごでは、一度できると生卵に戻らないということが人体でも起きていると思ってもらうと分かりやすいと思います。

そのため、熱中症は罹患する前の予防が最も重要であるといえます。特に高齢者や子供、スポーツ選手、屋外作業に従事する方々はより熱中症になりやすいので注意が必要です(図②)。



図①

特に注意したい方々

エアコンが効いている室内や風通しのよい日陰など涼しい場所を出るだけ選べ、体調の変化に気をつけ、早めの水分補給などを心がけましょう。

こども

こどもは体温の調節能力が十分に発達していないので、気を配る必要があります。



高齢者

熱中症患者のおよそ半数は65歳以上の高齢者です。高齢者は暑さや水分不足に対する感覚機能やからだの調整機能も低下しているので、注意が必要です。



障害のある方

外出を予定される際は、ルート上で日陰になる場所、ミストゾーン、障害者用トイレ、エレベーターなどがあるか調べておきましょう。競技場などでは医務室の場所も確認しましょう。



図②



自衛隊訓練



今回の訓練で当院は、自衛隊航空機（UH-1J）により離島の患者の受け入れを行う予定でしたが、悪天候のため、直前で当院の患者を県中部に搬出する内容に変更されました。このため期せずして、患者受入れと搬出の両方の事前準備を行うことになり、多くの経験を得ることができました。

この経験を生かして、地域の皆様の命を守る体制づくりを進めてまいります。

（皆様のご理解とご協力のおかげで、トラブルもなく全てのメニューを安全に終了することができました。心より感謝申し上げます。）

当院は幡多地域唯一の「災害拠点病院」となっています。

大地震などの災害時には、道路の寸断により陸路での患者搬送が困難になることが予想されますので、有事にあたっては、関係機関とスムーズに連携し、重症患者を安全かつ迅速に受け入れ、搬送できるよう、実戦的な訓練が不可欠です。

令和8年1月23日（金）に当院のヘリポート等において、陸上自衛隊第14旅団との合同による「方面隊災害対処訓練（患者搬送訓練）」が実施されました。

■陸上自衛隊と患者搬送訓練を行いました



感染症発生時対応訓練



2025年12月15日に高知県主催で、2019年の新型コロナウイルス感染症のような、それまで存在しなかった新しい感染症（新興感染症）が幡多地域の医療機関で発生した時にどう対処するかについての訓練が行われました。

幡多地域の医療機関で新興感染症が発生し、保健所や救急隊がどのような資機材や装備で対応するか、新興感染症に対応できる2種感染症指定医療機関である幡多けんみん病院までのような経路で搬送し、幡多けんみん病院ではどのように入院場所に収容するかについての実地訓練です。

搬送手順の確認のみならず、取り扱いの難しい身を守るための装備（防護具）の脱ぎ方などの手順についても確認を行いました。

高知県では久しぶりの開催となり、近隣医療機関の方々、幡多地域の消防組合、幡多福祉保健所、主催者である高知県健康対策課のみならず、県内の多くの福祉保健所の方々も参加されました。また、訓練の概要については夕方のニュースでも取り上げられました。



陰圧装置付きストレッチャー



陰圧装置付き車椅子

～院内の訓練内容～



患者移送車到着～感染症病床に受け入れるまでの移送（経路確認）



つなぎ防護衣の着脱。特に安全な脱ぎ方の確認





栄養科
管理栄養士
敷地 美紅



とうもろこしの甘みと大葉の爽やかな香りを楽しめる、夏にぴったりの一品です。鶏ひき肉でたんぱく質をしっかり補いながら、トマトに含まれるリコピンやビタミンCなども一緒に摂ることができます。さっぱりとした和風トマトだれで食べやすく、暑さで食欲が落ちやすい時期にもおすすめです。

corn and shiso leaf tsukune 「とうもろこしと大葉のつくね〜和風トマトだれ〜」

【2〜3人分】

〈つくね〉

鶏ひき肉…300g

コーン…60g

大葉…5枚

卵…1個

片栗粉…大さじ1

塩…小さじ1/3

こしょう…少々

サラダ油…小さじ1

〈和風トマトだれ〉

トマト…1個

ポン酢…大さじ1と1/2

ごま油…小さじ1

大葉…2枚

〈つくね〉

①大葉はみじん切りにする。

②ボウルに鶏ひき肉、コーン、大葉、卵、片栗粉、塩、こしょうを入れて粘りが出るまで混ぜる。

③食べやすい大きさに丸く成形する。成形しにくい場合は、スプーンですくってフライパンに落としてもよい。

④フライパンにサラダ油を熱し、中火で両面を焼き、中まで火を通す

⑤余分な油を軽く拭き取り、器に盛り付けて、和風トマトだれをかける。



〈和風トマトだれ〉

①トマトは1cm角、大葉は千切りにする。

②ボウルにトマト、ポン酢、ごま油を混ぜる。

③大葉を加え、冷蔵庫で冷やす。

けんみん

リハビリだより



熱中症に負けない体づくり

熱中症予防には、水分補給やエアコンの使用だけでなく、日頃から体を動かすことも大切です。適度な運動を続けることで、汗をかく機能が維持され、暑さに負けにくい体づくりにつながります。

おすすめは、涼しい室内で行う「足踏み運動」や「椅子からの立ち座り運動」です。無理のない範囲で1日5〜10分程度から始めてみましょう。

運動時のポイント

- ・のどが渇く前に水分補給をする
- ・エアコンや扇風機を活用する
- ・体調が悪い日は無理をしない



暑い日が続く季節だからこそ、適度な運動で体力を維持し、熱中症を予防しましょう。

いいねの木のご紹介

令和7年度より看護部では、臨床倫理リンクナースの会を中心に、「いいねの木」の取り組みを行っています。「いいねの木」は、職員間で交わされる会話や態度に目を向け、他者の良い点や日頃の感謝を短いメッセージにしてカードに書くものです。メッセージは、看護師だけでなく、パートナーである看護補助者や医師、コ・メディカルといった共に働く仲間に向けて書かれています。

1年間でたくさんの「いいね」が集まり、大きな「いいねの木」になりました。院内に掲示していますので、足を止めて眺めてみるのもいいですね。



病院バス停の場所を変更しました

コロナ禍に出入り口を西玄関に限定するため移設していた敷地内バス停の場所を、以下のとおり変更し、コロナ禍前の状態に戻しました

ご利用の皆様にはご不便とご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

変更前 2階西玄関前



変更後 1階東玄関前



GOOD!



看護部のインスタ紹介

看護部では、2024年9月より、広報ワーキングが中心となりInstagram(以下、インスタ)を開設しました。インスタでは、幡多けんみん病院の看護職員がいきいきと活躍している様子や、研修の様子、部署紹介などを行っています。また、看護職員の休日の過ごし方や、幡多地域の豊かな自然風景、一年を通した催しなど、ほっと一息つける内容の投稿も行っています。今年度に入りフォロワーが580人を超え、多くの方々に応援していただいていることを大変うれしく思っています。引き続き、応援、フォローをよろしくお願いいたします。



@HATAKANGO

CHECK!



NICE!



薬剤科の日常と幡多の魅力を全国へ!

SNS

薬剤科では2023年4月よりInstagramとFacebookを開設し、日常の業務や幡多地域の魅力を発信しています。近年の病院薬剤師不足や都市部への人材集中を踏まえ、SNSを通じて職場の雰囲気や業務内容を分かりやすく伝え、当院に関心を持っていただくことを目指しています。

また、四万十市・宿毛市・土佐清水市・大月町・黒潮町・三原村など、自然や食文化に恵まれた幡多地域の魅力も紹介し、地域に興味を持つ方が当院で働き、この地に住む好循環の創出も目指しています。



Instagram・Facebook



Instagramフォロワー800人達成!

日頃よりSNSをご覧いただき、応援して下さる皆さまに心より感謝申し上げます。

